

# 参議院選挙の結果について

2022年7月16日

山形県労働組合総連合 議長 勝見 忍

7月10日に投開票された参議院議員選挙の結果、自民党は改選議席の過半数の63議席、公明党は13議席を獲得し、与党は合計76議席となった。補完勢力である日本維新の会は12議席と議席を倍加させ、国民民主党は5議席に後退した。立憲野党では、立憲民主党が17議席、共産党が4議席となり、改選議席をそれぞれ減らした。社民党は1議席を死守、れいわは3議席を獲得した。改憲勢力は、改憲発議が可能となる3分の2議席を維持した。

山形選挙区においては、国民現職の舟山康江氏が当選したが、6年前の得票を7万5千票近く減らし自民党候補に2万7千票という僅差に迫られた。舟山氏は選挙戦中、懸命に「野党」を強調し、国民民主党の与党化ぶりに対する批判をかわしてきた。

山形県労連は、舟山氏がこれまでの野党共闘に背を向け、共闘の一丁目一番地である安保法制＝戦争法についても明言せず、自身が筆頭副代表を務める国民民主党が予算に賛成するなど与党化したことをふまえ、6年前のように支援することはできないことを表明した。

舟山氏が選挙中に有権者に対して、政権と対峙する姿勢を強く示したが、安保外交、防衛、憲法、経済対策などの諸問題で、どのように政府・与党と向き合い国民の切実な要求を実現していくのか、厳しく問われることになる。今後、同氏の国会活動を注視すると同時に、同氏が公約したとおり「野党」として政府・与党に対し、労働者・国民の切実な要求を提起する本来の役割を果たすよう迫ることが求められる。

山形県労連は今回の参院選を、全労連方針に結集し、労働者の要求実現を可能とする政治への転換の機会と位置付け、労働者・国民の切実な要求を掲げ、各党の政策比較など機関紙での選挙特集の掲載やツイッターへの投稿などに取り組み、「選挙に行って政治を変えよう」キャンペーンを繰り広げた。加盟組織のみなさんの奮闘に心から敬意を表する。

選挙直後から、岸田首相はじめ自民、維新の幹部などが改憲発議に言及しているが、国民は改憲を信認したわけではない。各種世論調査では、国民が重視する政策で「憲法改正」は常に数パーセントでしかない。ウクライナ危機に乗じて、改憲を一気呵成にすすめることは許されない。

投票日2日前に、安倍元総理が銃撃をうけ死亡するという痛ましい事件が起きた。いかなる理由があっても、自由な言論を暴力で封殺する行為は絶対に容認できない。

山形県労連は、全労連に結集して改憲を許さない世論の構築に奮闘すると同時に、最低賃金1500円・全国一律化などすべての労働者の大幅賃上げ、消費税減税、社会保障制度の抜本拡充、物価高騰対策、コロナ対策の強化などに向け、全力をあげることを表明する。

以上